社楽
SHA RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.89

2021/01

謹賀新年 丑の社史

今年は丑年です。丑年生まれの新人司書が、干支にまつわる社史の執筆に挑戦してみました。今まで発行した社楽での調査は蛇（挫折）、馬（２５号）、羊（３７号）、猿（挫折）、鳥（６４号）、犬（移転期間中）、猪（挫折）といった状況です。牛のマークや社章・商標を社史で調べます。果たしてどんな結果になるでしょうか。

牛丼チェーンで有名な吉野家は、牛の角が特徴的なマークです。**『吉野家創業１００年史』**（１９９８年刊）の中に、少しだけ記載があったので引用します。「ちなみに、六角看板および牛のマークは、４号店目の目黒店から導入されている。吉野家のYをかたどった牛の顔を取り囲む綱は、今後海外に進出したときにオリエンタルな雰囲気をイメージさせるための意匠であった。」とありました。

ホルスタイン種の乳牛のイラストが印象的なパッケージの石鹸「赤箱」を手掛ける牛乳石鹸共進社株式会社。

赤箱に描かれる牛のマークについては、**『牛乳石鹸１００年史』**（２００９年刊）に詳しく記載があったので引用します。「昔からよく言われる「商いは牛のごとく」には、前へ進んでも後へは退くな、ねばり強く前進せよ、という意味がある。牛は、おどろくべきバイタリティーの持ち主でありながら、性格はすこぶる温順であるため、誰からも愛され親しまれている。堅実なる経営のもと、誰からも愛される製品をつくり続ける――まさに「牛の姿」にほかならない。牛のマークは、自社製品を表示する商標であることはもちろんのこと、社の精神をも象徴させたものである。」とありました。

ちなみに赤箱のパッケージは、時代ごとにリニューアルされており、「イメージを変えないよう「目元は愛らしく、しっぽは行儀よく、足元は清潔に」というポリシーを貫いている」そうです。**『牛乳石鹸１１０年史』**（２０１９年刊）に、歴代赤箱のパッケージとともに記載されていました。

牛乳、乳製品、アイスクリームなどを手掛ける森永乳業の、頭に花をつけた牛

（裏面につづく）

（表面からつづく）

のマーク。練乳などで目にするこのマークは、**『森永乳業五十年史』**（１９６７年刊）によると「カウヘッドマーク」というそうです。

社史をめくると、チーズ、バター、粉末インスタントクリーム、乳牛用の配合飼料など多くの商品に使われていました。昭和２８年に発売されたミルクの缶が「下半分に赤を基調として「カウヘッド」マークを中央に現わしたもの」であり、「今後の商品にまでも当社のシンボルとして取り扱われるようになっていった」そうです。

また、各国への輸出の経緯を綴った中に、「海外では森永より牛頭牌のペット・ネームで知られるのは、当社のカウヘッドマークがいかに印象強いかを物語るものである」とありました。

「メイトー」という商品ブランド名でおなじみの協同乳業も、**『協同乳業５０年史』**（２００３年刊）によれば二代目の社章・商標が、牛の頭を模したマークでした。

『協同乳業３０年史』（１９８４年）に詳しい記載があったので紹介します。

「乳業会社のシンボルマークとしては、新鮮で明るく、親しみのもてるイメージのものが、ふさわしい」という社の意向で、マークの変更を決定。賞金を設けて社員に募集をかけたものの、秀作の提案がなかったため、専門家に依頼することにしたそうです。昭和３９年３月に「独創的で、きわめて個性豊かな新マーク」が誕生します。はじめは「ガイ骨のようで、ゾーッとするとか、釜飯屋のマークだ」などとなかなか社内で認められなかったそうですが、『世界のトレードマークとシンボル』という本に「日本の特徴的で代表的シンボルマーク」として収録されてからは、社内でも理解されるようになり、社章にも採用したそうです。

最後に、意外なところに牛を発見したのでご紹介します。「ペコちゃん」の由来について**『Ｆｕｊｉｙａ　ｂｏｏｋ　創業８０周年記念誌』**（１９９０年刊）に「ペコは子牛の愛称として各地で使われていた「べこ」を、（中略）西洋風にアレンジしたもの」とありました。

今年はモーっとたくさんの社史のご寄贈をお待ちしています。（企画情報課　堀田）

第２２回優秀会社史賞発表

日本経営史研究所による優秀会社史賞が、去年の 11 月に発表されました。
隔年で実施し、第 22 回を迎えます。今回の受賞は、次のとおりでした。

【優秀会社史賞】
『東レ９０年史』（2018 年刊）
『ニコン１００年史』（2018 年刊）
『日本精工１００年史』（2018 年刊）
『パナソニック百年史』（2019 年刊）

【特別賞】
『東ソー８０年史』（2018 年刊）

上記の社史は、いずれも所蔵しており、貸出も可能です。ご来館の折にぜひご利用ください。

●問合せ先　神奈川県立川崎図書館　企画情報課
213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟 2F
電話：044-299-7826 ＦＡＸ：044-322-8878
https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html